

今冬は、寒さは厳しかったのですが、積雪は少なく比較的楽な冬でした。しかし、北海道や東北では豪雪による大きな被害がありました。

ところで、世の中は改憲、改憲と騒がしいですね。世の中の閉塞感を憲法のせいにするとはなんと短絡的な考え方でしょう。現憲法があったからこそ第2次世界大戦後60年以上の期間、我が国は戦争とは無縁でした。世界史をふり返れば、人類の歴史は戦争の歴史なのです。このことから、いかに現憲法、特に9条が卓越した条文なのかは自明であります。それを変えようというのですから、なんと愚かなことでしょうか。私は、改憲が声高に叫ばれる現状では日本の将来を悲観せざるを得ません。今の北朝鮮を見れば一目瞭然のことではないでしょうか。武力によっては、平和は永遠に訪れることはありません。平和は武力の放棄と真摯な対話からこそ生まれるのです。



【最近目立つ病気】

1月下旬からはじまったインフルエンザの流行は、当初のA型からB型に移行し例年のごとくダラダラと続いています。B型は症状では普通の風邪と似ているために診断が遅れることがあります。迅速検査法がなかった頃には、症状からは診断できないので長びく風邪あるいは花粉症が合併したものとみなされていたと思われま

す。感染性胃腸炎の流行は続いています。乳幼児ではロタウィルスの流行がみられはじめました。ロタウィルスは乳幼児にとっては重症化しやすく要注意です。この時期、嘔吐・下痢に加えて高熱や白色便が見られる場合はロタウィルス感染の可能性が濃厚です。

溶連菌感染症の流行も続いています。胃腸炎の時に似た症状—すなわち腹痛、悪心・嘔吐、発熱といった症状もみられるために紛らわしいことがあります。また、インフルエンザに合併している場合がありますので症状が長びく場合は注意が必要です。

その他、水痘、アデノウィルス感染症、RSウィルス感染症、手足口病が目立っています。

【B型インフルエンザ】

B型インフルエンザはヒトとアシカ亜目のみに感染します。鳥、豚、ヒトなど多くの宿主が存在し人畜共通感染症とみなされるA型インフルエンザウイルスと比較してB型インフルエンザは宿主域が狭いため、パンデミックが発生しません。A型インフルエンザのように毎年遺伝子型が変異することはなく、数年の周期で変異が起こると考えられています。通常は冬から初夏にかけてなどらかな流行がみられます。A型インフルエンザのような激しい症状は少なく、通常の感冒症状が長びくだけの場合も多いです。軽い風邪に花粉症が重なっていると思われることも少なくありません。このような例では迅速検査をしてはじめて診断されます。診断が遅れるために、流行がなかなか終わらないのかもしれません。

風邪症状が長びき今までに花粉症になったことのない方は、B型インフルエンザかもしれませんのでご注意ください。

【先天性風疹症候群】

免疫のない女性が妊娠初期に風疹に罹患すると、風疹ウイルスが胎児に感染して、出生児に先天性風疹症候群(CRS)を引き起こすことがあります。風疹の流行年とCRSの発生の多い年は完全に一致しています。

風疹は主に春に流行し、妊娠中に感染した胎児のほとんどは秋から冬に出生しています。

発生段階の初期(特に3カ月以内)にウイルス増殖があれば、CRSを引き起こします。CRSの診断としては、症状、ウイルス遺伝子の検出以外に、臍帯血や患児血からの風疹IgM抗体の検出が確定診断として用いられます。IgM抗体は胎盤通過をしないので、胎児が感染の結果産生したものであり、発症の有無にかかわらず胎内感染の証拠となります。予防で重要なことは、十分高い抗体価を保有することであり、免疫のない方は風疹ワクチンで免疫を付ける必要があります。妊娠可能年齢の女性で風疹抗体がない場合には、積極的にワクチンで免疫を獲得しておくことが望まれます。ただし妊娠中のワクチン接種は避けてください。また接種後2ヶ月間は避妊してください。しかし、たとえワクチン接種後妊娠が判明したとしても、過去に蓄積されたデータによれば障害児の出生は1例もないので、妊娠を中断する理由にはなりません。

【ワクチン最新事情】

我が国のワクチンも充実してきました。

(1)平成25年4月から、金沢市でも結核に対するBCGワクチン接種が個別接種となります。これまでは集団接種だったので、ワクチン接種のスケジュールを立てる際に他のワクチンとの同時接種ができないため不自由でした。個別接種となり、しかも標準接種期間が生後5~8ヶ月であり、生後1年まで接種可能となったため時間的な制約が非常に楽に

なりました。何度も来院されるのは赤ちゃんにとっても負担になりますので6ヶ月健診時に受けられることをお勧めします

(2)任意接種であったヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、HPVワクチン(子宮頸がん予防ワクチン)の3種類が定期接種化されました。

(3)任意接種の水痘ワクチン、おたふくかぜワクチンについて、2回接種が推奨されるようになりました。おたふくかぜについては1才に1回目 3~5才で2回目、水痘については1才に1回目 3ヶ月以上あけて2回目が標準です。

(4)接種部位についてはワクチンによる大腿四頭筋拘縮症の出現はないとのことで、これまでの上腕接種部位に加え、大腿前外側部が推奨されています。2012年度の医師用予防接種ガイドラインに記載されました。赤ちゃんの小さな腕に接種するのはたいへんなので、今後は当院でも大腿前外側部を採用したいと考えています。

MEMO



☆大手町の夜間急病診療所(Tel:222-0099)では午後7時から11時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は5/3・5/26・6/20・7/11の予定です。また、7/21は当番医です。

☆金沢市では幼児期の任意接種のワクチン(水痘・おたふくかぜ・インフルエンザ)についての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆5月からすこやか検診がはじまります。当院では、特定健診・肺がん検診・肝炎ウイルス検査・前立腺がん検診を担当しています。

☆世界の宝「憲法9条」を次の世代に贈りましょう。

